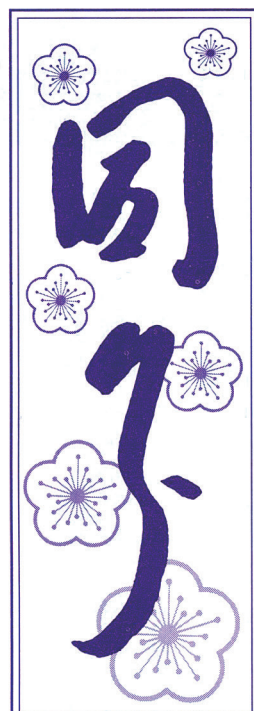


あなうれし 花のみそのに み仏の  
 生れし良き日ぞ 讃えまつらん



平成20年8月15日

第29号

発行 梅花流師範・詠範の会  
 会長 柴田弘一  
 題字 初代会長・故加藤信三師  
 編集者(広報部) 亀谷 隆道

梅花流師範・詠範の会事務局  
 五城目町 待月院 嶋森憲雄  
 電話 (0188-52-9566)

# 「お誓い」について

秋田県梅花流師範・詠範の会 会長 柴田弘一

年齢を重ねるごとに月日の経つのが早く感じられる昨今です。写経の時が一番心のしずまる時、時がゆっくり流れている様に感じています。皆さんは如何お過ごしですか？  
 今回は「お誓い」についてと題しました。

私達梅花講員が普段お唱えしている「お誓い」について考えてみたいと思います。  
 私達は梅花流詠讃歌を通して、正しい信仰に生きます。

私達は梅花流詠讃歌を通して、仲良い生活をいたします。

私達は梅花流詠讃歌を通して、明るい世の中をつくりまします。

「お誓い」は『誓願』のことで、私達が日々の精進努力する大きな目標とするべきことです。この三つのお誓いの根拠は、仏教の十六条の仏戒の中の「三聚浄戒」にあるといわれます。

「三聚浄戒」は三種の清浄にさせる仏教の戒めです。少し難しい言葉になってしまいましたが、順次ひも解いてまいりましょう。「三聚浄戒」は「摂律儀戒」「摂善法戒」「摂衆生戒」のことです。

「摂律儀戒」とは諸仏の説かれた法(おしえ)や律(教団の規律)を根本とする教えであるという意味で、一切の悪いことは心からいたしません、と誓うことです。このことを「正しい信仰に生きます」に言い換えています。正しい信仰は、経や教典を学び、正師(正しい導きの師)について得られるものです。

次に「摂善法戒」とは、一切の善いことは真心からいたします。善行に励まんと誓うことでこのことを「仲良い生活をいたします」と表現しています。他と仲良くすることは自分を抑止し、他を思う気持ちで実行、継続、努力してゆくことになりまします。

「摂衆生戒」とは、利他(「自未得度先度他」)の心をもつて自分より先に他を先に救おうと努力することの心で、一切世のため人の為になることを心からいたします。の意味で「明るい世の中をつくりまします」と表現し、一切衆生を救わんと誓い、まず自分の身近なところから工夫努力しなければなりません。

今「三聚浄戒」をもとにして「お誓い」を解いてみましたが、併せて「お誓い」の原点は「帰依三宝」である。との見解もあります。正伝の仏法を承当する我が宗門にあつては「帰依三宝」つまり「帰依仏」「帰依法」「帰依僧」を仏教の原点とし、仏法僧への帰依をかかげております。

「帰依仏」を、仏は大師(正しい導きの師)なるがゆえに帰依(心から頼り、すがりまかせます)を、「正しい信仰に生きます」と解し、「帰依僧」を、僧は勝友(まされる友、共に歩む人)なるがゆえに帰依す、を「仲良い生活をいたします」に解し、「帰依法」を法は良薬(心を安らげくする)なるがゆえに帰依すは…仏の教えをよりどころとして共に菩薩行(「自未得度先度他」)を実践することを「明るい世の中をつくりまします」と解したものです。「三聚浄戒」と「帰依三宝」の両方を見合わせるの解釈も成り立つわけで、ひととおりに述べてみました。要は梅花講員の日々の努力目標である「お誓い」を、「私達は」を「私は(一人称)」におき替えて、一人ひとりが、自分のことだ！と自覚して精進努力することが大切なことだ、と思います。良い日ぐらしを念じております。



# —福島大会に参加して—

## まごころに感謝



興昌寺寺族  
大坂 勝子

全国をまわる梅花流全国奉詠大会の、すべてに参加する事はとてもできませんが、それぞれの地方大会には、素晴らしい思い出があります。

その中で、今年の福島大会はもつとも深い感銘を受けました。まず何よりも初めて大本山永平寺の福山諦法師様を、遠い位置ではありましたがご拝顔できましたことは、本当にありがたいことでありました。

さらには、福島県の梅花流関係の皆様が口々にいわれておられた「手づくり大会」のまごころがひしひしと感じられた大会であったと思います。

まず、ステージの「花頭窓」のバックがかつて経験したことがないほどの荘厳さを与えてくださいました。こうした発想は、プロのステージ・デザイナーではなく、常日ごろ寺院で暮らしている人の感性のよう

に感じられ、手づくり大会といわれることが、よく理解できたような気がします。こうした舞台で奉詠できたよろこびを「法悦」というのでしょうか。

また、登壇の際には、地元福島県の講員



の方々が、小旗を振ってお出迎えてくださったことにも深く感動いたしました。

ここにも「手づくり大会」の「まごころに生きる」という、本物の実践を見たように思い、重ねてお礼申し上げます。

一方、会場往復の道中も楽しく、さすが同行同修の心の結びつきは素晴らしいものと、つくづく感じました。

その中で、定義如来を祀る浄土宗西方寺

様の参詣も、心に残る素晴らしい思い出となりました。あの広々とした庭園は、聞きしに勝る素晴らしいもので、心の中まで洗ってくれるような思いであり、あらためて寺院における庭園の持つ役割の大きさを実感いたしました。

秋田県にも、こうした名刹があればどんなに素晴らしいことでしょうか。規模は比べようもなくちっぽけなものです。が、方丈が一生懸命、庭づくりに取り組んでおられますので、少しでも清らかな境内づくりのお手伝いをしていきたいと考えております。

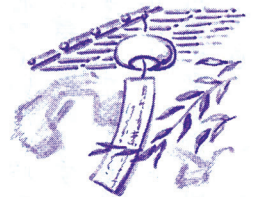
梅花講の法縁で、こうしたありがたい機会に出会えたことに感謝し、これからこれからの限定もできる限り詠道に精進して参りたいと思います。





みんな、梅花やらネイガー

# おらほの梅花講



住所	南秋田郡八郎潟町一日市
設立	昭和六十三年
講長	志田 愛正
講員	二十五人

八郎潟町一日市清源寺梅花講は、昭和六十三年十月、十五名の講員で設立されました。

柴田先生のご指導を頂き、何もかも初めてのことに戸惑い乍らも、寺族さんを頼りにして楽しく過ごして参りました。

平成三年六月、思いがけない寺族さんとの悲しいお別れに、皆茫然として荒波に投げ出された気持ちでした。その時、柴田先生に「こんな時こそしっかりとまとまる様に」と力強いお言葉に励まされ、方丈さんのお力添えに支えられ乍ら、今年で二十年になりました。現在二十五名で力を合わせ、月例会と待月院嶋森先生

のご指導と合わせ、月二回の練習です。又、毎年のお涅槃へも参加させて頂いて居ります。

講員家族のご供養や、お葬式へ参加させて頂くときもあります。県大会、特派講習、一泊講習、仏教入門等への参加もあります。

新年会の笑い始めが一年の始まりで、この時だけはお休みしている講員にも誘い合い、参加してもらいます。ご多分に漏れず、お仲間の足腰の不調で、遠出の場合は悩みですが講員の年令に中がありますので、今後楽しみで、期待しています。

長くなればなる程、奥の深い梅花ですが、「知る」喜びの一つとして仲良い生活を続けたいと思つて居ります。

紹介者 講員 高橋恵子

先般の志田愛正老師の訃報に接し、心より御冥福をお祈り致します。

## テレビホン梅花

☎0188-737-7676

(毎週土曜日にテープが代わりします)

- ◆八月二日 戦災精霊 (和) 九日 五蘭盆会 (和) 十六日 地藏 (和) 二十三日 慈念 三十日 永光 (永平二祖)
- ◆九月六日 追善 (和) 十三日 香華 二十日 開山忌 (和) 二十七日 真清水
- ◆十月四日 達磨 (和) 十一日 廓然 十八日 御授戒 (和) 二十五日 永光 (総持二祖)
- ◆十一月一日 溪声 (永平一) 八日 菩提 (太祖) 十五日 讚仰 (和・太祖) 二十二日 法灯 (太祖) 二十九日 道交
- ◆十二月六日 成道 (和) 十三日 明星 二十日 報謝 (和)

※ご意見ご要望等をお気軽に  
お寄せ下さい。

〒010-0111  
秋田市金足岩瀬字前山三  
東泉寺(0188-737-2675)

## ちよつとどじょう

～表紙の写真について～

秋田県内での「花祭り」は大概五月に開催されています。

梅花講としては三仏忌行持のお祝いと練習と信仰をもって開催できるのですが、梅花講だけの行持に止めておかないで、本来ならば子供たちをも集めて、命の意味(私たちがここにうまれてきたこと)を考え、教え諭す日にしたら良いのではないかと思います。

秋曹青の若い僧侶の皆さんは五月八日に行われた平鹿の下鍋倉保育所の花祭りに参加させて頂きました。子供たちはドキドキワクワク、みんな真剣です。花祭りの歌を歌い、小さなお釈迦様に甘茶をかけ小さな手を合わせます。小さな心で何を願ったのでしょうか。

子供の笑顔が家の中を明るく照らします。笑顔によって、家庭がなごみます。無垢の笑顔が無垢の心と呼び覚ますのでしょうか。無垢の魂はこれから、どんな色に染まっていくでしょうか。我々はその道筋を示し、見守って行かなければなりません。少年達の心が見えない今の現代社会において極めて難しい事ですが、佛様から授かった命を大切に育てて行きましょう。



梅花のふるさと

詠讚歌の生まれた風景 (その七)

# 終生誓った孝順の心 永平寺の承陽殿

大本山永平寺二祖懷奘禪師讚仰御和讃

一、お側を離れずあたたく

道元禪師を護られて

心をつくし身をつくし

ひたすらかしげずきたまいけり

二、時をば惜しみて怠らず

道元禪師の正法を

涙の筆にととのえて

宗旨のいしげえ築かれぬ

三、ときのうつりし今もお

承陽殿の奥深く

ひたすら侍者位にまします

永平懷奘二祖禪師

大本山永平寺二祖懷奘禪師讚仰御詠歌

緋濃き杉生の深き下陰と

思うばかりをなごこととせむ

作詞 赤松月船師

## ◇道元さまと懷奘さま◇

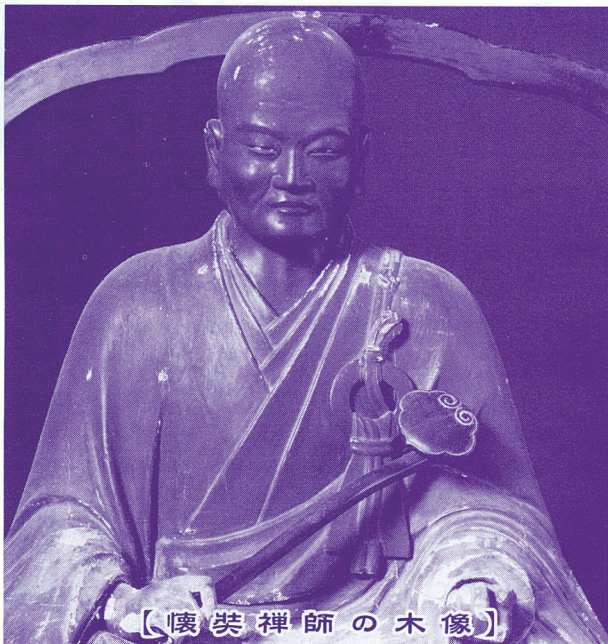
鎌倉時代のことです。ひとりのお坊さまがおりました。そのお坊さまはたいそうすぐれた方でした。学問と修行に秀で、加えて当時盛んになりつつあった禅の教えも修めていた方でした。

ある日、最近中国(当時は宋と呼んでいました)から帰ってきたという若い僧侶のうわさを耳にしました。人の話ではなかなかの僧侶というが、さてどれほどのものだろう」と、お坊さまは京都のお寺に住まいしていたその僧のもとへ訪ねて行きました。

二人の僧侶は、しばらく仏教についてお互いの考えるところを話しあいました。ところが自分より二歳年下というその僧の考えは、はつと胸を突くものがありました。それまで坐禅は悟るための手段だと思っていたお坊さまに対し、年下の僧は次のように言ったのです。「(仏になろう)と求めて坐禅するものではありません。坐禅しているそのことが仏なのです」と。この考えは、禅の修行に対する自分の考えを、根本から変えてくれるものだろうと予感し、いつかこの人に弟子入りした

いと願うようになりました。このお坊さまが後に永平寺の二代目となる懷奘さまであり、対する年下の僧侶が道元さまだったのです。いったん道元さまのもとを辞した懷奘さまは、しばらくのち、それまで禅の修行をしていた仲間修行僧たちも引き連れて、道元さまに弟子入りしました。この時、道元さまは三十四歳、懷奘さまは三十六歳でした。こうして懷奘さまは、道元さまがお亡くなりになるまでの二十年間の生涯を、ずっとそばにお仕えして過ごしたのです。

## ◇孝順の道◇

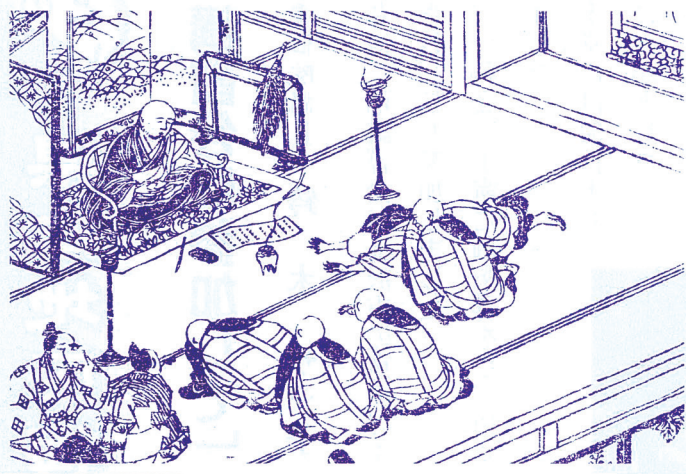


【懷奘禪師の木像】



【道元さまのご臨終】

この時、そばでお仕えしていた懐装さまは、あまりの悲しさに気を失ってしまわれました。それはまるでお釈迦さまが涅槃に入られたときの阿難さまのようでした。



京都から福井の山奥へ、そこで永平寺の建築事業を支え、次第に増えてゆく修行僧たちの指導にあたり、道元さまの身の回りのお世話とともに、折に触れてお示しになる道元さまの教えを一言も漏らさずに記録し続けました。今日私たちが道元さまの言葉に接することが出来るのも、懐装さまのお力によるところが大きいのです。  
お釈迦さまの弟子の一人に阿難さまという方がいます。お釈迦さまのご臨終まで、生涯ずっとお釈迦さまに仕えた人でした。懐装さまは、自分もお釈迦さまに仕える阿難さまのように、道元さまにお仕えしたいと願っていました。道元さまがお

亡くなりになったあと、永平寺の二祖とられた懐装さまは、ある日弟子たちにこのように言うのでした。

「私が死んだら、特別に仏事は行なわなくてよい。ただ、道元さまご命日の法要の時に、回向してくればありがたい。また私のための塔など建てなくてもよいが、できれば私の遺骨は、道元さまの塔のそばに埋めてほしい」と。この世の生を終えてもなお、お師匠さまにお仕えする身であり続けたいという懐装さまのお心は、純粹な孝順心として、今日まで大切に語り継がれています。

◇杉木立の中の承陽殿◇

道元さまの霊骨を祀るお堂が、大本山永平寺にある「承陽殿」です。そびえ立つ杉の巨木に囲まれ、苔むした中にたたずむ建物です。懐装さまの霊骨がここに一緒にお祀りされているのです。永平寺では承陽殿をお護りする役目を「侍真」と呼んでいます。

梅花流先達の赤松月船師は、永平寺修行時代、この侍真役のお手伝いをする「真行」というお役目を務めたことがあります。

赤松「私は雲水時代、承陽殿のお給仕役の下周りをしておりましたから、真行という役をね。ですから承陽殿の周囲のことはよく心得ているわけなんです。やはりあそこも杉が巨きくなりました。静かないところになりました・・」（安田博道著『歌声に伝えます』）



【永平寺の承陽殿】

その時の経験がもとになって生まれたのが懐装禅師の御和讃と御詠歌です。

「緑濃き杉生の深き下陰」とは、承陽殿のたたずまいのことです。そして、そこに立ち、懐装さまが終生、道元さまにかしづくようにお仕えしていた孝順の心を思う時、その場所が、ありふれた杉木立の中ではなく、なぜか他とはちがう感慨が湧いてくる、という気持ちに言葉にしたのが「なごこととせむ」（Ⅱどうしてよそとは違う思いがするのだろうか）という表現でした。  
懐装さまが道元さまにささげた孝順のまこと、私たちがまたそのお心にまなび、受け継いでまいります。



梅花のつどい

# 県南地区梅花一泊講習会開催

湯沢市 東山寺

## 「一泊講習会に参加して」

霊仙院講員 鈴木 サツ子

先日、梅花流一泊講習会が湯沢市の東山寺を会場に開催され、私も参加しました。

全体講習、分科会と丁寧な御指導をして頂くことができました。

夜になり本堂には何百本のロウソクに火がと灯され、二十名以上の方丈様による読経は、とてもすばらしいものでした。楽しみにしていた萬灯供養の始まりです。参加者一人一人が合掌して本堂へ進み、ロウソクに火を灯します。続経、暗闇にロウソクだけの明かり、その光景は幻想的でなんといいいいのか、映画でも見ている気持ちになったのは私だけでしょうか。あ



その名を呼べばこたえてし

まりのお経のすばらしさに、今は亡き父母、そして最愛な息子のことが頭に浮かび涙が次々と流れだし、息子へはなぜは母より先にといい泣けてくるのです。

参加して良かった。この場所にいることで、仏様になった身内が喜んでいと思うのです。

亡くなった息子は夢にも出てこなくなりましたが、私が元気になり孫達と楽しく生活しているから、息子が喜んでるのかなーと勝手に解釈しています。長い時間お経が続き、私達の名前の書かれた塔婆が読み上げられ、最後に塔婆を焚いて供養は終了です。この供養はあらゆる仏様、今までの行動を滅除し、きれいな



あふるるものは涙のみ

身心となり無病息災など様々なことを祈念するのだそうです。本当にすばらしい供養をして頂き感謝申し上げます。

亡き息子はこんな母をどう思っているのかなと想うこともありますが、「仏様として成仏し安心していらっしゃる」とそんな気がします。そして梅花を通じて大勢の仲間と出会い、話し合える幸せに自分も生かして頂いているとつくづく思えます。

お忙しい中、会場を提供して下さいました東山寺のご住職、また大勢の方丈様に心より感謝申し上げます。有難うございました。



# 特 派 師 範 巡 回 報 告

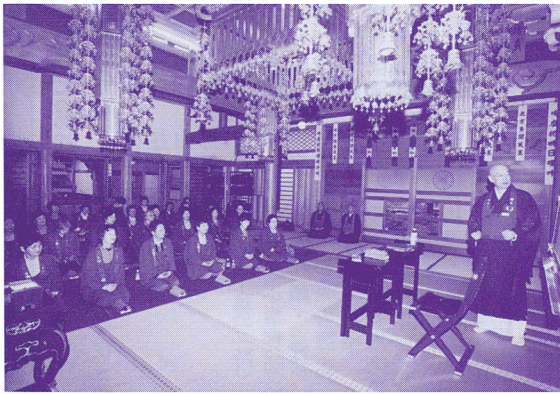
## 「夢中で過ごした一年」

普門院住職 本間 雅憲 師範

平成十九年度長野県第二宗務所と、埼玉県第二宗務所を巡回させていただきました。

六月下旬からの長野県では、北秋田市龍泉寺佐藤俊晃先生と、秋田県二人組での巡回でお世話になりました。私は、茅野市から下伊那方面へ県南部を移動しました。六十名から二百名近くまで、多くの参加を賜り、驚くともうらやましく感じました。しかし、それでも参加者は少なくなっているとのことでした。

県南部は、南アルプスと中央アルプスに挟まれた地域で、山が高いうえに両側から迫っていて圧倒される景観でした。各寺院がどのく



らしいの標高にあるかが、一般常識になつてい  
るらしく、「おたくは標高どれくらい？」な  
どと訊かれましたが、考えたこともなく答え  
られませんでした。新曲「新亡精霊供養御和  
讃」中心の講習でしたが、「まごころに生き  
る」二曲ともに永くお唱えしてほしいとい  
う想いが深くなりました。

十月には埼玉県へ、秩父・飯能・川越を巡  
回させていただきました。秩父は有名な三十  
四カ所札所があります。その教区では寺院名  
よりも「〇〇番さん」という札所の番号で呼  
び合う事が多いとのことでした。埼玉では、  
半年後に宗務所規模の奉詠大会を控えており、  
課題曲中心の講習となりました。御和讃・御  
詠歌二曲での登壇とのことでしたが、教場に  
よって数教区合同の教場もあり、課題曲が多  
いし新曲の講習もしたいし…連日の時間配分  
が大変でした。また今年三月に飯能市で行わ  
れた奉詠大会にも参加し、講評と模範登壇を  
勤めさせていただきました。半年後にお会い



大会会場での模範詠唱。「キビシィー」

少を危惧していました。梅花流に携わる私達  
一人一人が、同行同修のよろこびを伝える地  
道な努力を続けていくしかないのかもしれま  
せん。

各宗務所役職員の皆様・地元の特派師範・  
師範詠範の先生方・宗侶・寺族の皆様方には  
本当にお世話になり、御礼申し上げます。

昨年梅花流特派師範を拝命し、夢中で過ご  
した一年でしたが、緊張の中で師範詠範並び  
に講員の皆様に満足していただけたのか、不  
安で夜も眠れない？思いです。もとより浅学  
非才ではありますが、梅花流の発展に、詠讚  
歌に、今後とも精進してまいりたいと存じま  
す。どうかよろしくお願い申し上げます。

した皆様の登壇奉詠は、ただただ感動でした。人数の違いこそあれ、どの教場も熱心な受講で頭の下がる想いでした。どちらでも一様に、講員の減



# 梅花行事ご案内

## ■ 禅センター梅花講習

【宗侶・寺族研修会】（午前十時半～午後三時半）

十月十四日（火）講師 佐藤俊晃師範

十一月十七日（月）講師 慈念・廓然  
山中律雄師範  
月影・妙鐘

【檀信徒講習会】（午前十時半～午後三時）

九月十一日（木）講師 亀谷隆道・鈴木泰賢師範

十月十日（金）講師 達磨大師御和讃・廓然  
柿崎隆徳・郡亮善師範

十一月十三日（木）講師 花供養御和讃・供華  
小野碩瑛・村松良周師範

十二月十二日（金）講師 無常御和讃・月影  
鈴木泰賢師範  
正行御和讃・道環

※受講は無料です。昼食持参でお気軽にご参加下さい。初心者、上級者の二会場にて

## ■ 檀信徒講習員一泊研修

◎ 県南地区は七月二十四日～二十五日に湯沢市の

東山寺様にて開催致しました。  
研修報告をご覧下さい。

◎ 中央地区

日時 十一月七日（金）～八日（土）  
会場 男鹿市船川港大龍寺

◎ 県北地区

日時 十一月十九日（水）～二十日（木）  
会場 大館市大滝温泉富士屋ホテル

※会費、詳細、日程等は決まり次第各講長さんを通じてご案内致します。  
※他の地区の研修会に参加もできますので申し込みはお早めに。

## ■ 秋田県梅花流奉詠大会

今回からまた県内二カ所に分かれて開催致します。

◎ 中央・県南大会

日時 八月二十六日（火）  
会場 由利本荘市「西目シーガル」

◎ 県北大会

日時 八月三十一日（日）  
会場 鹿角市「鹿角市記念スポーツセンター」

※二会場にて一人一人の顔が見えお唱えが聞ける充実した大会になると思います。  
大会に向けて奉詠曲も練習中だと思っております。  
で、お盆の暑さを乗り越えて、お元気なお唱えをお聴かせ下さい。

## 検定会のお知らせ

### ～ 20年度課題曲決定～

平成20年度の秋田県宗務所主催梅花流検定会を下記の日程にて開催致します。平素の練習の成果を発揮する機会ですので、ぜひ受検下さいませようご案内致します。

数多い検定課題曲の中から限定いたしました。苦手な課題曲がありましたら師範先生に特訓を受けて検定に臨んで下さい。「成せばなる、成さねばならぬ何事も」です。

■ 県北検定会場（九・十教区） 事務局 新田寺 ☎ 0186-78-4280

9月6日（土） 会場/北秋田市米内沢「龍淵寺」

※龍淵寺会場は午後1時集合～受付。1時半開講式です。

↓なお、下記の3会場は午前9時集合～受付、9時半開講式で10時検定開始です。（お間違えのないように）

■ 県南検定会場 事務局 東林寺 ☎ 0184-22-3437

9月12日（金） 会場/由利本荘市「慶祥寺」

■ 県北検定会場（十一・十八教区） 事務局 恩徳寺 ☎ 0186-23-2372

9月24日（水） 会場/大館市十二所「リトル大滝温泉」

■ 中央・三級検定会場 事務局 宗務所梅花主事 ☎ 0188-68-6871

10月16日（木） 会場/秋田市「さとみ温泉」

### ● 詠範（寺族）検定課題曲

補 教 正法・修証義・紫雲（高祖）より2曲。

詠 範 補 浄心・梅花（太祖1）・入寂（高祖）・誕生（太祖）より2曲。（※和讃は立行）

五級詠範 溪声（永平2）・慈光・地藏・無常より2曲。（※和讃は立行）

四級詠範 花祭・歓喜（第2）・明星・不滅・高嶺・追善より2曲出題。（※和讃は立行）

三級詠範 紫雲（高祖）・梅花（太祖1）・慈光・廓然・讃仰（太祖）・御授戒・慶祝より3曲出題。  
（※和讃は立行・分節詠唱あり）

### ● 檀信徒検定課題曲

教 導 三宝・正法

権正教導 聖号・修証義

正 教 導 浄心・紫雲（釈迦）

権中教導 梅花（高祖2・太祖1）・誕生（高祖）より2曲（和讃は立行）

中 教 導 溪声（永平寺2・総持寺1）菩提（高祖）より2曲（和讃は立行）

権大教導 入寂（高祖）・法灯（太祖）・無常～月影（連続）より2曲出題（※和讃は立行）

大 教 導 歓喜（第2）・成道・涅槃・観音・慈光・慈念・妙鐘より3曲出題（※和讃は立行）

三級教範 紫雲（高祖）・梅花（高祖1）・溪声（総持寺1）・廓然・讃仰（太祖）・法灯（高祖）

御授戒・慶祝より3曲出題（※和讃は立行・分節詠唱あり）